

令和5年度鶴岡市市民まちづくり活動促進事業

事業名 第28回黒川蠟燭能配信事業
(第2回)

黒川蠟燭能実行委員会

団体名について

蠟燭能という企画の立上げに至る経緯について、当時は各方面から依頼を受けての出張公演が多くなり役者の負担が増えたことがありました。

黒川能の役者は農業又は会社等に務めている人がほとんどで、公演が増えることで公演料が入り能座の運営や装束類を維持するためには良いこともありました。多様化する職業形態の中で練習に必要な時間の確保が大変な事、公演の度に仕事を休まなければならない事、企業によっては地域の伝統芸能や文化に理解が低いところもあり、定期演能も含め頻繁に休む事ができない役者も増えてきました。

「黒川蠟燭能実行委員会」は、黒川能の若手・中堅能役者や地域内外の有志のボランティアにより運営されています。神事能である黒川能を実際に黒川で観覧してもらうことで地域の風土や文化、人々との交流などを体験できる公演「黒川能は黒川で」を掲げ、黒川能の保存伝承と個性豊かで魅力あふれる地域の発展に寄与することを目的として立ち上げられました。

また、蠟燭能が企画された当時、黒川地域最大のお祭り「王祇祭」の一般観能者は黒川能保存会で抽選に選ばれた人でないと見る事ができなかったため、抽選に外れた方に蠟燭能の方へ来ていただき、その雰囲気を通して少しでも体験することができるのではないかと考えられました。

取り組みの背景・事業目的

黒川蠟燭能は、若者を中心に実行委員会を組織し、「黒川能は黒川で」を掲げ、地域の風土や文化、人々との交流などを体験できる地元で公演している。また、黒川能の保存伝承と個性豊かで魅力あふれる地域の発展に寄与するため、有観客上演とは別に、動画配信などを活用した新たな協賛者の掘り起しが課題となっている。そのような中で、去年は、コロナ禍による状況打開のため、無観客ならではのカメラワークで動画生配信を行い、現時点で約2600回の再生されている。また、PR動画も6本合計で約4300回の再生があり、黒川能を観たことの無い人たちからも好評を得ている。

本年は有観客での観能を再開しながら、現地の雰囲気と黒川能の魅力が伝わる動画を配信し、黒川での鑑能と新たなファンの開拓の両立を目指す。また、今後の本事業継続に向けて、有観客上演とは別に、配信動画への広告掲載による新たな協賛者の掘り起こしを目指す。

《事業によって得られる効果と目標》

- 動画配信を活用し、伝統芸能に触れる機会のない若年層への周知。
- 現地での観覧希望者の増加と現地観覧の価値向上。
- 上演目的の周知によるイベント支援者の増加。
- **PR** 動画の投稿（配信）6回以上（目標）、実演の配信、延べ再生回数6000回。
- 地域の若者にとって面白みやアイデアを活かせる場となる。
- 運営側における映像を用いた情報発信のノウハウが得られる。

実施計画

《事業の具体的な内容》

有観客の条件下で、演能を魅力ある動画を撮影編集し、YouTube 配信する。また、プロモーションのため、「演者」と「黒川能」を紹介する動画を作成し配信する。昨年の「仕事と演者」に続き、今年は「家族と演者」(仮)をコンセプトにする。今年度は、有観客のもとより会場にいるような臨場感を演出し、新たなファンや協賛者の掘り起しに繋げるものである。並行して、本実行委員会においても、一連の活動を通じ、情報配信に必要な技術、ノウハウの蓄積を行う。

《再生数の獲得について》

来場者からも動画視聴してもらうためのPR

新聞等各メディアに取材記事を掲載してもらう

実施状況

- 8月31日（水）企画運営会議
- 9月上旬～蠟燭能DM配布
- 9月22日（木）実行委員会全体会議
- 9月22日（木）告知（PR）動画の配信
- 9月27日（火）告知（PR）動画の配信（2本）
- 10月 2日（日）会場設営（春日神社）／関係者会議
- 10月 3日（月）告知（PR）動画の配信
- 10月 9日（日）会場リハーサル
- 10月10日（月）告知（PR）動画の配信
- 10月13日（木）告知（PR）動画の配信
- 10月15日（土）第28回 黒川蠟燭能の開催（撮影収録）
- 10月28日（金）動画編集打合せ
- 12月19日（月）映像確認
- 12月23日（金）黒川蠟燭能 配信



事業の成果と今後の課題

動画は5回6本の投稿配信を実施し、上演配信の再生回数は、3月末時点で1,100回を超え、伝統芸能に触れる機会がない人に対しても広く周知することができた。また、動画投稿で新たなファンの獲得に繋げるとともに、協賛者からのコメントを投稿でき、協賛者の掘起しにも取り組むことができた。

実行委員会としては、知識やノウハウを得るため、動画配信や編集・カットについて指導を受けながら実施することができた。

次年度以降も継続的な情報発信に取り組む。

黒川 蠟燭能実行委員会 YouTube

